

市民福祉常任委員会所管事項調査報告書

期 日	令和5年1月17日（火）
訪問先	山形県 山形市
出席者	田口 孝男 委員長 山崎 由枝 副委員長 後藤 由紀子 委員 松本 樹影 委員 瀧口 慎太郎 委員 田上 祥子 委員
随行者	中井副主幹
調査項目	山形市南部児童遊戯施設「コパル」について
調査内容	<p>山形市は、雨天時や冬期間に子供たちが伸び伸びと遊べる屋内型の遊戯施設「べにっこひろば」を平成26年に整備したが、年間約25万人という想定を大きく超える利用があり、混雑解消のため令和4年4月に屋内型の「コパル」をオープンした。</p> <p>コパルは「生きる力」「インクルーシブ※」「地域共生」を掲げ、障害の有無や人種、言語、家庭環境にかかわらず多様な個性や背景を持った全ての子供たちの遊びと学びの場という基本方針の下、子供たちの様々な状況を想定し議論を積み重ねていったことで、肌触りのよい木・音の出るベンチなど五感を大切にする空間、車椅子も利用できる幅広のスロープや遊具を整備するなど、誰にとっても使いやすい施設になっており、子供たちの未来を考えている事業であると感じた。</p> <p>※ 性別や年齢、人種・国籍の違い、障害の有無など、異なる背景や特性を持つ人々が互いを認め合い共に生きること。</p>
主な質疑	<p>Q 施設の利用状況は。 A 1時間当たり400人という利用制限はあるが、令和4年10月以降の利用者は月平均で約1万3,000人であった。</p> <p>Q 建設費や維持管理費等に国や県からの補助金はあるか。 A 児童館建設の補助金交付の要件に当てはまらないため市費であるが、併設する子育て支援センターは建設費の一部と運営費に補助金が交付された。</p> <p>Q 課題は。 A インクルーシブを追い続けなければいけないこと、様々な背景を持つ方がいるため対応も幅広くしていかなければいけないことである。</p>

市民福祉常任委員会所管事項調査報告書

期 日	令和5年1月18日（水）
訪問先	栃木県 宇都宮市
出席者	田口 孝男 委員長 山崎 由枝 副委員長 後藤 由紀子 委員 松本 樹影 委員 瀧口 慎太郎 委員 田上 祥子 委員
随行者	中井副主幹
調査項目	第2次宇都宮市自転車のまち推進計画について
調査内容	<p>「自転車のまち」を掲げる宇都宮市は、環境意識や健康志向の高まり、余暇活動の活発化などの自転車を取り巻く環境やニーズの多様化により「自転車のまち推進計画」を平成22年度に策定し、この課題を踏まえて令和3年5月に「第2次宇都宮市自転車のまち推進計画」を策定した。</p> <p>自転車走行空間の整備、学校・プロスポーツチーム・企業等と連携した交通安全教室の開催、ジャパンカップサイクルロードレースの開催などの「基盤づくり」「意識向上」「機会づくり」を掲げ、自転車交通分担率（通勤・通学）、「自転車のまち」への興味の割合、自転車利用環境の充実への満足度を向上させることを目標とする計画であり、セーフコミュニティ認証都市として世界に誇れる安心・安全なまちの実現に向かう本市の施策に大いに役立てられるものであった。</p>
主な質疑	<p>Q ハード整備で苦労した点は。 A 現在は既存の道路の幅員内で自転車専用通行帯や矢羽根型の路面標示を整備している。整備当初は邪魔だ、危険だと言われたが、狭い道路だからこそ自転車が通行することをドライバーに認識させたいと思い、狭い道路でもしっかり整備している。</p> <p>Q 交通安全指導者の確保をどのように行っているか。 A 保育士や幼稚園教諭、交通安全教育の経験者（元警察官など）を募集している。また、職員や会計年度任用職員も行っている。</p> <p>Q 自転車ヘルメット購入への助成はあるか。 A ない。持っているから必ず着用するとは限らない。重要なのは有用性の認識である。</p>